（様式第１－３号）

研　修　カ　リ　キ　ュ　ラ　ム　・　シ　ラ　バ　ス

科目	細　　目	時間数 計	講義 通学	演習	実習	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
1　職務の理解		（指導目標）　研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事をおこなうのか、具体的なイメージをもって実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。				
	（1）多様なサービスの理解	3	3		0	介護保険導入の背景と制度の基本及び介護保険サービス、介護保険外サービスについて解説する。
	（2）介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		0	居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス等働く現場の仕事内容及びサービス提供に至るまでの一連の業務の流れ、チームアプローチ、多職種及び地域の社会資源との連携について解説する。
2　介護における尊厳の保持・自立支援		（指導目標）　介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例等を理解している。				
	（1）人権と尊厳を支える介護	6	6			人権と尊厳の保持、ノーマライゼーションの考え方、ＱＯＬ及び介護分野におけるＩＣＦについて解説する。また高齢者虐待、身体拘束及びサービス利用者の尊厳保持のための制度、プライバシーを傷つける介護について理解する。
	（2）自立に向けた介護	3	3			自立・自立支援の多様性、個別ケア等介護サービス提供の基本的視点を学び、実践に生かします。また、介護予防活動の目標を実践に活かすことができるよう、その内容について解説する。
3　介護の基本		（指導目標）　介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。また、介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。				
	（1）介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	2			施設と居宅という介護環境の特性を解説し、多職種連携のあり方、地域包括ケアの役割、専門職としての役割、多職種連携における介護職の役割を解説する。
	（2）介護職の職業倫理	1	1			介護職の仕事は公共性が高く、知識・技術だけではなく高い倫理性が必要であることを説明し、利用者・家族に対するかかわり方、かかわる際の留意点について解説する。
	（3）介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	1			介護サービス提供において予防重視のリスクマネジメントの考え方、リスク分析の方法や視点、事故発生時の報告方法や情報共有の大切さを理解する。また、感染対策のため、感染の原因や経路、スタンダード・プリコーションについて解説する。
	（4）介護職の安全	2	2			介護の質に影響する介護職員の健康管理及びストレスマネジメント及び、介護職員の労働者としての立場・権利・制度について解説する。

（様式第１－３号）

科目	細目	時間数 計	講義 通学	演習	実習	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
4　介護・福祉サービスの理解と医療との連携		（指導目標）　介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。				
	（1）介護保険制度	4	4			「介護の社会化」の必要性、予防重視型システムへの転換、地域包括ケアシステムの推進等について説明し、介護保険制度の基本的な仕組み、介護給付、予防給付の種類、新手申請から結果通知までの手続、介護保険の財源等について解説する。
	（2）医療との連携とリハビリテーション	2	2			介護職が実施できない医行為、医療、看護の役割及び連携の必要性について解説する。また、リハビリテーションの理念、目的及び高齢者のリハビリテーション・地域リハビリテーションについて解説する。
	（3）障害福祉制度およびその他制度	3	3			わが国の障害福祉制度の歴史を概観し、障害福祉制度の理念、障害自立支援法の目的及び概要について解説する。また、個人情報保護法、成年後見制度等についても解説する。
5　介護におけるコミュニケーション技術		（指導目標）　高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。				
	（1）介護におけるコミュニケーション	3	3			介護サービスにおけるコミュニケーションの目的と意義、役割及び円滑なコミュニケーションのための共感と利用者理解、自己覚知及び言葉遣いについて解説する。また、共感、受容、傾聴的態度、気づき等の基本的なコミュニケーションの方法と留意点について解説する。
	（2）介護におけるチームのコミュニケーション	3	3			チームにおけるコミュニケーションの有効性、重要性、チームアプローチの効果と意義及びコミュニケーションを促す環境について解説する。また、記録における情報収集の重要性と心得、記録の意義と目的、ケアカンファレンスの重要性について解説する。
6　老化の理解		（指導目標）　加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。				
	（1）老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	3			加齢に伴う五感の変化が日常生活に与える影響について説明し、ケアを行っていくうえでの注意事項を解説する。また、からだにおこる加齢変化について解説する。
	（2）高齢者と健康	3	3			高齢者の身体的・精神的機能の変化と病気との関連、日常生活への影響について解説する。また、老化に伴う身体の変化、高齢者に多い疾患について説明し、介護における留意点を解説する。
7　認知症の理解		（指導目標）　介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。				
	（1）認知症を取り巻く状況	1	1			認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方を説明し、「できること」に着目したケア、その人らしさを活かすケアの形としてパーソン・センタード・ケアの考え方を解説する。

（様式第１－３号）

科目	細目	時間数 計	講義 通学	演習	実習	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
	（２）医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2			認知症の定義、診断基準など、認知症についての基礎知識をを説明し、加齢に伴う物忘れと認知症の違い等を解説する。また、認知症の種類と原因について説明し、中核症状と行動・心理的状態（ＢＰＳＤ）の違いについて解説する。
	（３）認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	2			行動・心理症状が誘発される介護職の不適切なケアを説明し、適切なケアとはなにかを解説する。また、認知症の人の言葉や表現しぐさから中核症状の及ぼす影響及び生活支援の具体的な対応方法や留意すべき視点を解説する。
	（４）家族への支援	1	1			認知症高齢者を介護する家族介護者の負担感やその要因を説明し、家族の世話と専門家のケアとの違いを解説する。また、社会サービスの有効利用、家族の気持ちや受けやすいストレスについて解説する。
8　障害の理解		（指導目標）　障害の概念とＩＣＦ、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。				
	（１）障害の基礎的理解	0.5	0.5			障害の概念とＩＣＦの考え方、障害の受容のプロセス、介護職の役割を解説する。また、ノーマライゼーションの理念、リハビリテーションの理念、インクルージョンの理念について解説する。
	（２）障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2	2			身体障害、知的障害、精神障害、言語・聴覚障害、視覚障害、発達障害、高次脳機能障害、内部障害、難病等が日常生活にどのような影響を与えているのかを解説する。
	（３）家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5			家族の心理の一般的過程、家族の負担とその要因、家族支援の概要を説明し、介護負担とその要因、必要性を理解した家族支援とＱＯＬの向上との関係を解説する。
9　こころとからだのしくみと生活支援技術		（指導目標）　介護技術の根拠となる人体構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。また、尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。				
Ⅰ　基本知識の学習						（１０～１３時間程度）
	（１）介護の基本的な考え方	2	2			利用者一人ひとりに適切な介護を行うための基本的な考えを理解し、根拠に基づく介護の大切さを解説する。
	（２）介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2	2			加齢に伴って生じてくる心の変化について、日常生活への影響と高齢者の心理を解説する。また、高齢期に生じやすい心理・社会的環境の変化について説明し、それに応じた高齢期のパーソナリティの変化や適応の仕方について解説する。
	（３）介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6	6			介護の専門職として必要な身体各部の名称、人体の骨格・関節・筋のはたらきを解説する。また、基本動作における実際的な動きを説明し、ボディメカニクスの介護への活用や自律神経系について解説する。

（様式第１－３号）

科目	細目	時間数 計	講義 通学	演習	実習	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
Ⅱ	生活支援技術の講義・演習					（５０～５５時間程度）
	（4）生活と家事	5	5	0		生活における家事支援の必要性を説明し、利用者が望む衣食住の生活支援について解説する。また、家事支援は、利用者の自立とＱＯＬの向上に向けた援助であり、私的な手伝いではなく、制度に基づく自立支援であることを解説する。
	（5）快適な居住環境整備と介護	5	5	0		住居のあり方をとおして、個人のプライバシーや地域との交流などを説明し、障害者や高齢者にとって快適な住居整備について解説する。また、福祉用具の活用に関する基本的考え方を説明し、主な福祉用具の基礎知識と利用方法を解説する。
	（6）整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	2	5		日常生活のなかでの整容の意味、整容行動の基礎知識と仕組、身体の清潔を維持することの意味を解説する。また、演習の中で、清潔維持の方法や口腔の清潔保持の方法及び口腔体操について解説し、併せて担当講師が演習時間内に実技評価を行う。
	（7）移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	2	5		体位と姿勢の持つ意味、体位と姿勢に関して介護が目指すことを説明し、自立するための観察と介護方法について解説する。また、実際の介護現場を想定し、体位変換、衣類の着脱、安全で安楽な移乗方法を補助具等をも使用しながら解説し、階段やスロープ等実際の現場にて移動介助も解説する。併せて担当講師が演習時間内に実技評価を行う。
	（8）食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	2	5		人にとって食事のもつ意味を説明し、食べ物の咀嚼、嚥下の仕組みについて解説する。また、実際の食事介助を演習にて行うことで、食事の自助具の特徴と誤嚥させない介護のポイントを解説する。併せて担当講師が演習時間内に実技評価を行う。
	（9）入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	2	4		入浴のもつ意味や個別性、および皮膚の生理的機能や皮膚の汚れについて説明し、清潔行動の仕組みと清潔保持のための安全な援助方法を解説する。また、入浴介護のポイントや手順、特殊な用具や浴槽の特徴について説明する。併せて担当講師が演習時間内に実技評価を行う。
	(10) 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	2	5		人にとって排泄のもつ意味、排泄の仕組み、排泄介護の原則を解説する。また、実際の排泄用具を使用し、特徴や介護のポイントを説明し、排泄行動が自立できるための観察と介護方法を解説する。併せて担当講師が演習時間内に実技評価を行う。
	(11) 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	2	4		睡眠の意味と睡眠のリズムや種類、生理的変化をとおしてその仕組みを説明し、高齢者の睡眠の特徴を解説する。また、寝具を整えるときの介護のポイントと、演習にてベッドメイキングの手順とポイントを解説する。併せて担当講師が演習時間内に実技評価を行う。
	(12) 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	3	3	0		さまざまな終末期の形があることを説明し、終末期における緩和ケア、家族ケアについて解説する。また終末期における介護職員の基本的態度を演習を通して解説する。
Ⅲ	生活支援技術演習					（１０～１２時間程度）
	(13) 介護過程の基礎的理解	6		6		介護過程の目的・意義・展開について説明し、チームアプローチの重要性を解説する。また、事例をもとに普段の体調管理の重要性及び利用者の人生歴を知る必要性、孤独にさせない工夫等を解説する。

（様式第１－３号）

科目	細　　目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
		計	講義 通学	演習	実習	
	(14) 総合生活支援技術演習	6		6		生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れと必要な介護技術、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点について、グループ単位の演習を行う中で解説する。併せて担当講師が演習時間内に実技評価を行う。
10　振り返り		（指導目標）　介護職への入職段階として、在宅・施設を問わず、上司の指示などを受けながら基本的な介護業務を実践する能力と、その基盤となる基本的な知識と技術及び介護業務を実践する際の考え方のプロセス等について、到達目標を達成できたかどうかを振り返り確認する。				
	（1）振り返り	2	2			研修全体を振り返り、終了して感じたこと、考えたこと、本研修を通じて学んだことを自己評価を行うことで、各自、知識、技術の習得度に不足が無いか、また、今後継続学習すべきことを確認させる。
	（2）就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	2			介護人材の資格制度がどのような方向に改正されようとしているのかを説明し、国が推進している介護技術の評価制度の動向等も解説する。また、介護職としてキャリアを重ねるうえで、ＯＪＴ，Ｏｆｆ－ＪＴ、自己学習による研鑽の必要性など継続した学習の必要性を解説する。